



岡本 修部長

空調機器総合メーカー、新晃工業（社長 武田昇三氏、本社・大阪市北区南森町1-4-5）は、長時間稼働を前提とする工場用途での空気調和ニーズにダブルブラッグファン空調機、リリーフエアAHUなど省エネ・高効率型空調機で対応、実績を伸ばしている。

がシロココファン55%、ブラッグファン65%に対して75%を達成、効率10%アップを実現している。駆動はカップリング直結方式を採用、ベルトレス化で工場固有の長時間操業体制に対応し、ベルト交換の手間や材料費などのメンテナンスコストを大きく削減できる。さらに、シロココファンと比較すると25・6%の省エネ効果のほか、CO₂削減効果も期待できるという。年間運転時間が長い機器ほど電気料金を削減できるとする。

工場向け空気調和機で「採用事例が増加傾向

長時間稼働の工場空調に対応

新晃工業 リニューアル需要 堅調な推移

向（技術部長・岡本修氏）を示しているのが、リリーフエアAHU。1台の空調機に2台のファンモータを搭載、それぞれのファンモータごとに独立動作するため、どちらかのファンモータが停止しても自動でバックアップ運転し、万一の故障時にインバータやVAVなどの設備が不要となり、運転ロスを軽減できる。

機種構成は省エネ性の高いPC型ブラッグファンを搭載したRH1A（水平型）、1台のファンモータを搭載した空調機とほぼ同サイズのコンパクトなモーター一体型ブラッグファン搭載のRH1B（水平型）、RV1B（垂直型）の2タイプ3機種。RH1B、RV1Bはバックアップ機用スペースのない現場でも設置できる。

同社では新築着工の遅れを懸念材料としながらも「市中ストックのリニューアルは堅調。需要は底堅い」（岡本部長）と見ており、個々のニーズに正確に対応していく考え。